



## 新専門医制度を検証する

独立行政法人国立病院機構北海道医療センター  
内科系診療部長  
山本 宏 司

昨年、当院は内科専門医制度の基幹病院として日本内科学会にプログラム申請して、一部修正の上で承認されています。当院のプログラムは道内の国立病院機構の4病院（札幌・函館・旭川・帯広）、大学（北大・旭川医大）、札幌市内の設立母体の異なる3病院、遠軽厚生病院を連携施設として構成されています。また、研修期間は当院での研修が2年間、連携施設での研修が1年間としております。

これら構成は、3次医療圏内の病院との連携・地域である札幌市内の病院との連携・設立母体の異なる病院との連携などが望ましいとの日本内科学会の考え方に沿ったものです。また、“医師の地域偏在や地域医療の崩壊の危惧”が延期の理由ですが、この点にも配慮したプログラムとなっております。したがって、現在、平成30年の内科専門医制度に向けて申請中ですが、連携施設に関しては昨年度と変更はありません。変更点は、いわゆる内科Subspecialty領域との平行研修の緩和やプログラムの自由度がやや大きくなった点など、最近の日本内科学会からの通知に沿った若干の修正のみです。

内科専門医制度に応募する専攻医の8～9割が将来は内科のSubspecialty専門医を目指すと言われております。そのため、内科専門医制度に対して期待されることは、当院のプログラム理念にも掲げましたように“臓器別の内科Subspecialtyの専門医にも共通して求められる、いわゆるcommon diseaseに十分対応できる内科専門医を育成する”ことにあると思っております。当院の糖尿病脂質代謝内科の研修第一目標は“2型糖尿病患者は自分で診れる内科医を作る”となっております。この目標達成はなかなか大変ですが、目指す方向性は正しいと考えています。地域医療に配慮しながらも、高齢化の進行に伴い内科全般をある程度カバーできる専門医の育成がますます重要になってきています。したがって、内科Subspecialty研修と平行して内科領域全般に対する“良質”の研修を行うことが大変重要と考えています。

また、日本内科学会からは将来の研究者の育成にも配慮するように求められております。リサーチマインドを持った専攻医が基礎研究あるいは臨床研究を目指す機会を与えるためには、大学との連携も重要です。大学での研修となれば、臨床研修に加えて、基礎研究・臨床研究を見分けることによりリサーチマインドの涵養が図れると思っております。

## 新専門研修制度について 内科医の立場から

独立行政法人国立病院機構旭川医療センター  
臨床研究部長  
鈴木 康 博

2018年度の新専門医制度の運用に向けて各施設で準備が進んでいる。内科研修の基幹施設を目指し、当院でも研修プログラム作成を進めている。本制度は、初期研修を終えた研修医のさらなる育成のシステムになると考えられている。しかし、北海道での内科研修に注目すると、さまざまな問題点が浮かび上がってくる。

北海道にある3大学（北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学）で医学教育が行われ、多くの研修医が巣立っていくが、広大な北海道という特殊性もあり医師の地域偏在や地域医療の崩壊という問題がクローズアップされてきた。研修プログラム作成に当たり明確な整備基準やビジョンが示されており、その点で研修システムのレベルを一定程度保つことができると考えられている。その反面、制度ありきで議論がすすんでいる印象が否めず、大規模な病院に御しやすいシステムとなっている点での改善が必要と感じていた。当初の研修システムの導入が1年間延長され、その間に幸運にも現場の意見をくみ取れる時間を得ることができたことは、それぞれの地域に根差した中核病院や特色を有する病院も基幹施設となれるような多様性を含む整備基準への改良につながる可能性があると考えられる。

しかしながら、当初基準とされた内科総合専門医が指導医となる基準ではなく、指導医以外でも指導も可能となり、制度の整合性が取れない状況となっている。また、昨今過労死の問題がクローズアップされており、今まで以上に労働環境に配慮することが求められている。今回の研修システムを実施していく場合、医療に関わる指導医の疲弊はかなりの状況となることが予想され、指導医側の負担にも配慮が必要と考えられる。今後も研修医が落ち着いた環境で研修を積めるような整備基準の改良が望ましいと考えられる。

実際の医療現場では、人対人の営みが基本となっている。患者に対して、専門医である前に一人の医師として接する基本を身に着けることが可能な研修システムであることが重要で、今後の北海道の医療が崩壊しないよう、また制度疲労に伴う崩壊を来さないような新専門医制度に改良されていくことを切に願っている。